

事務事業名		大船渡ブランド化推進事業		☐ 実施計画登録事業 ☐ 合併建設計画登録事業	
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成12 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	23 豊かな地域資源を活用した観光の振興			
	基本事業名	01 観光客の誘致と観光宣伝の充実			
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 07 01 04 05	
所属	部課名	商工港湾部商業観光課			
	課長名	鈴木 弘			
	係名	観光物産係	電話		
	担当者	高木 隆幸	内線 116		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 当事務事業の中には大船渡ブランド化推進会議と大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会の2つの外郭団体がある。 大船渡ブランド化推進会議は、近年の観光物産の動向と需要に的確に対応し、かつ地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討、推進することによる地域の活性化を図ることを目的としている。主な活動としては、椿の里・大船渡PR事業、新大船渡グルメ普及事業等を行っている。 大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会は、大船渡市のグリーン・ツーリズム(農家・漁家体験型観光及び民泊)を推進するために、啓発、普及、情報発信等を実施し、都市との交流により地域の活性化に資することを目的としている。主な活動としては、受入れ体制整備及び人材育成事業、普及啓発・情報発信活動事業等を行っている。 事業費は、各会議・協議会への委託料、負担金として支出される。				全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称 単位 ア 実施事業数 件 イ ウ	
大船渡ブランド化推進会議: ・大船渡さんまら〜めんマップを再作製し各種観光施設等に送付した。 ・大船渡市観光ビジョンに係る意見聴取を行った。 大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会: ・体験実践者を各種研修会へ派遣した。 ・ホームページでの情報発信を行うとともに体験観光パンフレットを作製した。 ・体験観光の模擬実施により実践者のスキルアップを図った。			
今年度計画(今年度に計画している主な活動)			
大船渡ブランド化推進会議: 椿の里・大船渡PR事業、新大船渡グルメ普及事業に加えて、観光ビジョンに掲げる具体施策の具現化へ向けた取組みを行う。 大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会: ・受入れ体制整備及び人材育成事業 ・普及啓発・情報発信活動事業 ・体験メニューの発掘・拡充事業			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
直接対象: 大船渡ブランド化推進会議及び大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会		名称 単位 カ 歳入決算額 千円 キ 交付率(交付金額/収入決算額) % ク 構成団体数 団体	
間接対象: 地域資源、大船渡市民及び市外の住民			
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
・(大船渡ブランド化推進会議及び大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会)の活動が広く認識される ・(市民に)地域の資源の素晴らしさが再認識される ・(市外の住民に)大船渡の素晴らしさが周知される		名称 単位 サ 観光入込客数(年実績) 千人 シ ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
・大船渡市を訪れる。 ・魅力がPRされ、認知度が高まる。			

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	0	800	800	800	760	800
	事業費計(A)	千円	0	800	800	800	760	800
	正規職員従事人数	人	0	4	4	4	4	4
	延べ業務時間	時間	0	160	160	160	160	160
	人件費計(B)	千円	0	640	640	640	640	640
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	1,440	1,440	1,440	1,400	1,440
⑤活動指標		件	0	2	6	5	6	6
⑥対象指標	カ	千円	0	800	800	800	800	800
	キ	%	0	100	100	100	100	100
	ク	団体				33	33	33
⑦成果指標	サ	千人	0	1,016	1,020	1,125	1,200	1,200
	シ							
	ス							

事務事業ID	0442	事務事業名	大船渡ブランド化推進事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成11年度に実施した国土庁地方振興アドバイザー派遣事業の具現化を図るとともに、地域資源を再評価して吸引資源の発見・再生等について情報交換を図りながら、当市の観光物産振興のためのソフト面を中心とした振興策の検討・推進を図るため、平成12年度に開始された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
・通過型の観光から滞在型・体験型への転換を図るための事業を展開し、観光資源の発掘・創造を行い、一定のメニューを揃えることができた。
・大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会の事務局は当初(平成14年度)、農林課で担当していたが、平成18年度から商工観光物産課に移管された。
・平成19年8月31日付けで3省(総務省、文部科学省、農林水産省)連携による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が示されたことに伴い、体験型観光や農林漁家民泊等への需要と期待が高まった。
・平成24年度の機構改革により部課名が商工観光部商工観光物産課から商工港湾部商業観光課に変更となった。
・平成26年9月に大船渡市観光ビジョンを策定した。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
特になし

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討、推進している大船渡ブランド化推進会議と農村等における体験型観光の推進による地域の活性化を図っている大船渡市グリーンツーリズム推進協議会の運営を支援することは、豊かな観光資源をもとに、観光イベントの積極的な展開や体験型観光、広域観光の推進により観光客の誘致に努め、交流人口の増大を図る、市の政策に直結するものである。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	負担金及び委託料以外の収入はなく、事業費を回収できないため、民間による実施は困難であり、公共の関与が必要となる。観光物産振興による経済波及効果が期待できるため、市が関わることは妥当である。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	大船渡ブランド化推進会議は、官民一体となって地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討し、その結果を事業展開することで地域活性化を図ることを目的に活動している。また、大船渡市グリーンツーリズム推進協議会は、農村等における体験型観光の推進による地域の活性化を図っている。両会議及び協議会は観光の推進を図ることを目的としているため、妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	地域資源のブランド力の向上を図ることによって成果が向上する余地はある。 また、体験型観光については、大人数での対応が難しいものがほとんどとなっている。今後、大人数での対応が可能なメニューの発掘、拡充によって、成果が向上する余地はある。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	ブランド力の低下や体験型観光の縮小が考えられ、観光地としての魅力を失い、入込観光客数の減少につながると考えられる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討、推進している大船渡ブランド化推進会議は農村等における体験型観光の推進による地域の活性化をめざしている大船渡市グリーンツーリズム推進協議会と一部の事業が類似している。連携をさせ、組織の統合を図る。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	事業費の削減が成果の低下に直結する。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	(一社)大船渡市観光物産協会等への事務局移管(委託)によって削減は可能であると考えられるが、移管時期についてや、行政の責任をどこまで果たすか等、(一社)大船渡市観光物産協会等との検討が必要。	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	特定の業種・業者の利益にならないよう、幅広い委員の構成とし、希望者の参入が可能な体制としている。	

事務事業ID	0442	事務事業名	大船渡ブランド化推進事業
--------	------	-------	--------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 当市にある素材を発掘してブランド化し、対外的に売り込むことは、産地間競争が進む中で是非必要であると考え。特に最近の観光客は従来の「物見遊山」的な画一化した旅行から、多様かつ個性的な「目的性の高い旅・テーマ性のある旅」へ、また、「体験」「交流」などを楽しむ滞在型観光へと志向が変化・多様化してきており、当市の特徴ある食や体験観光を推進することは、当地域の経済においてたいへん効果的であると判断する。																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																								
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討、推進している大船渡ブランド化推進会議と、農村等における体験型観光の推進による地域の活性化を図っている大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会とは一部の事業が類似している。連携をさせ、組織の統合を図る。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持	●		×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 統合の際、両会議及び協議会の共通点、相違点を確認し、当市の観光が活気付く協議会の設立を目指す。																								

(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	商業観光課長	鈴木 弘
-------	--------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																						
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☒ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由 大船渡ブランド化推進会議、大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会の実施事業の整理や組織の統合、そして当該委員・構成団体が各種事業に主体的に取り組むスタイルを構築することで、成果の向上が期待できる。																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・現在は、大船渡ブランド化推進会議、大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会とも、事務局で考えた事業計画(案)を、委員会や総会で決定し、事務局だけで事業を実施している。今後、このスタイルを改め、それぞれの委員・構成団体が各種事業に主体的に取り組むように改める必要がある。 ・2つの組織は、地域資源を活用した体験型観光の推進では事業が重複することから、実施事業の整理や組織の統合等について検討する必要がある。																						
(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>○</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○	●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持	○	●	×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項